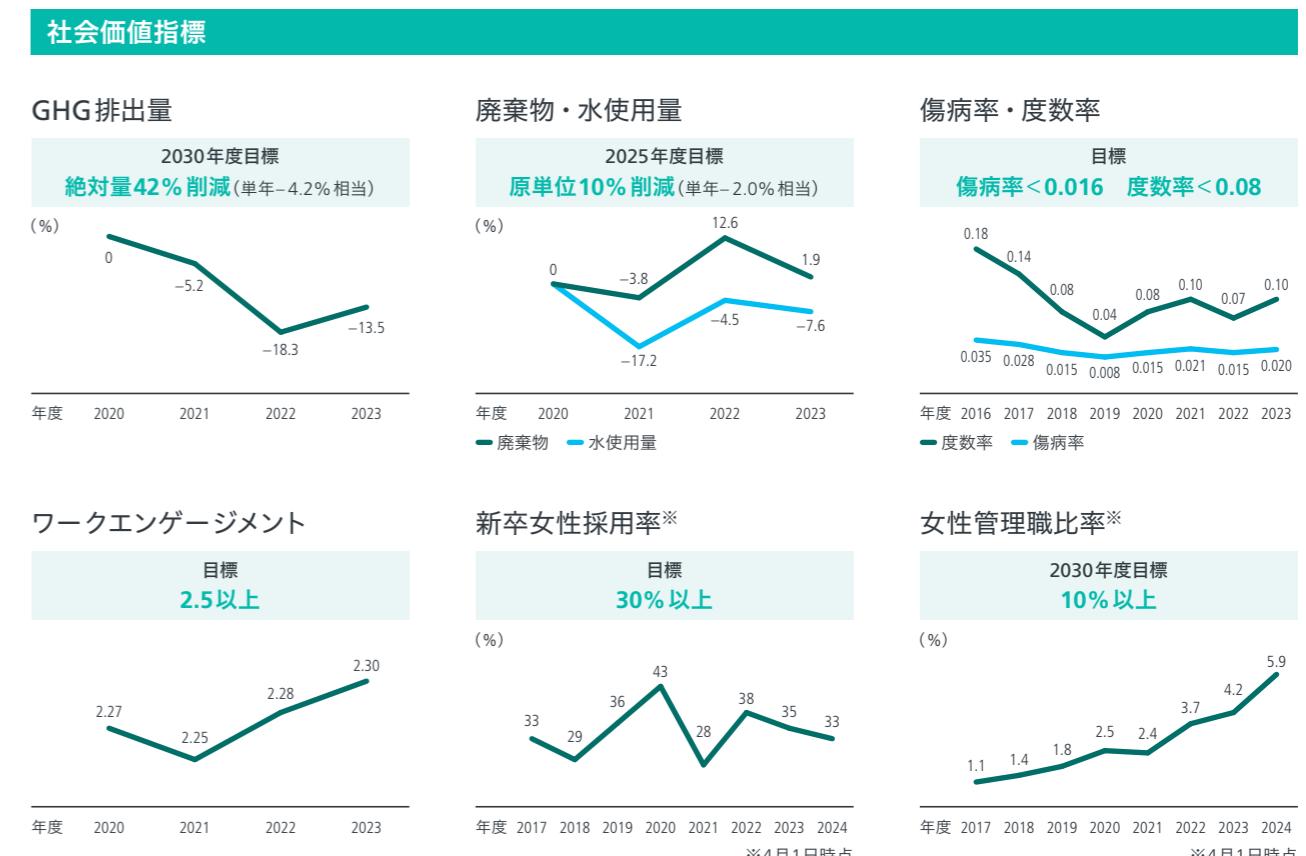
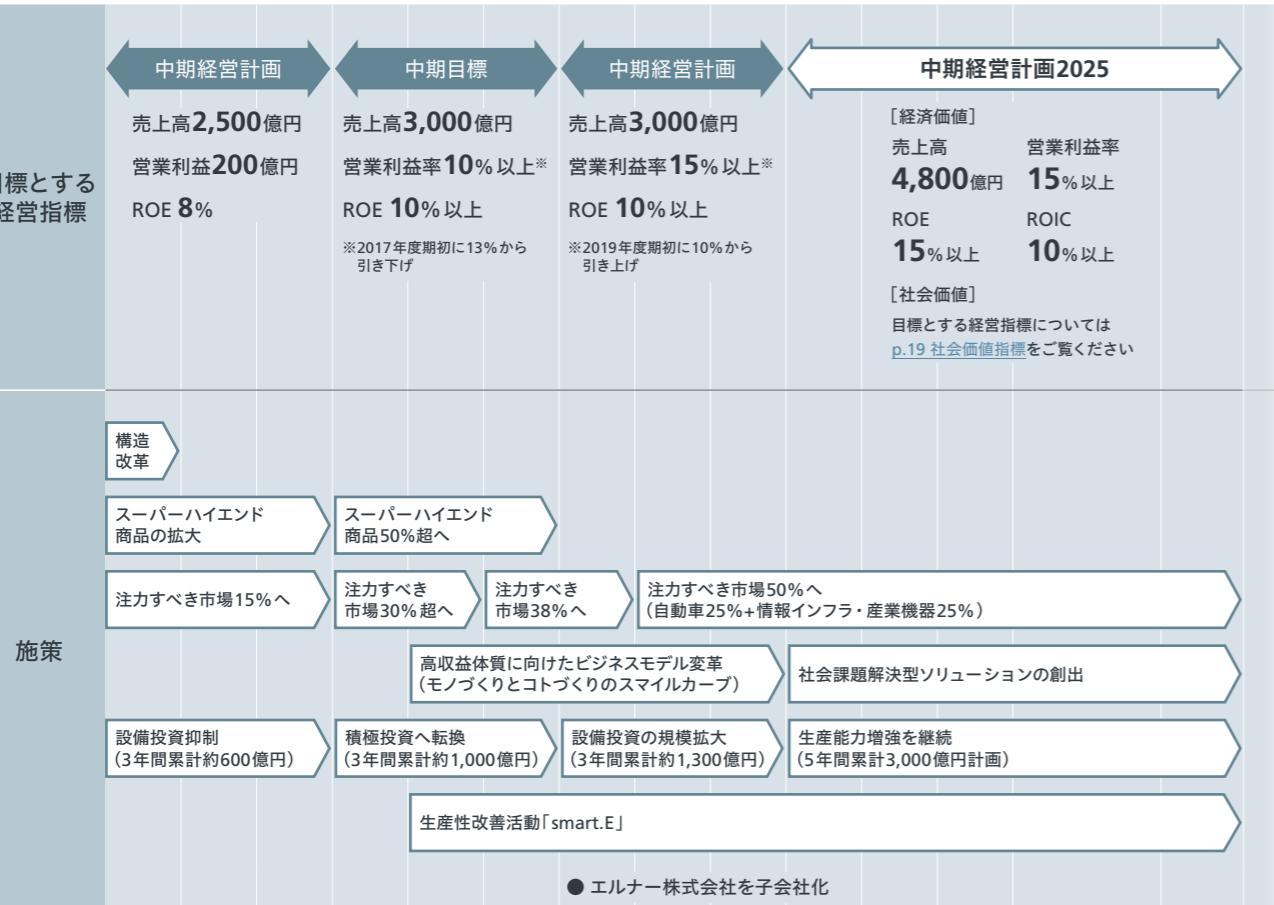
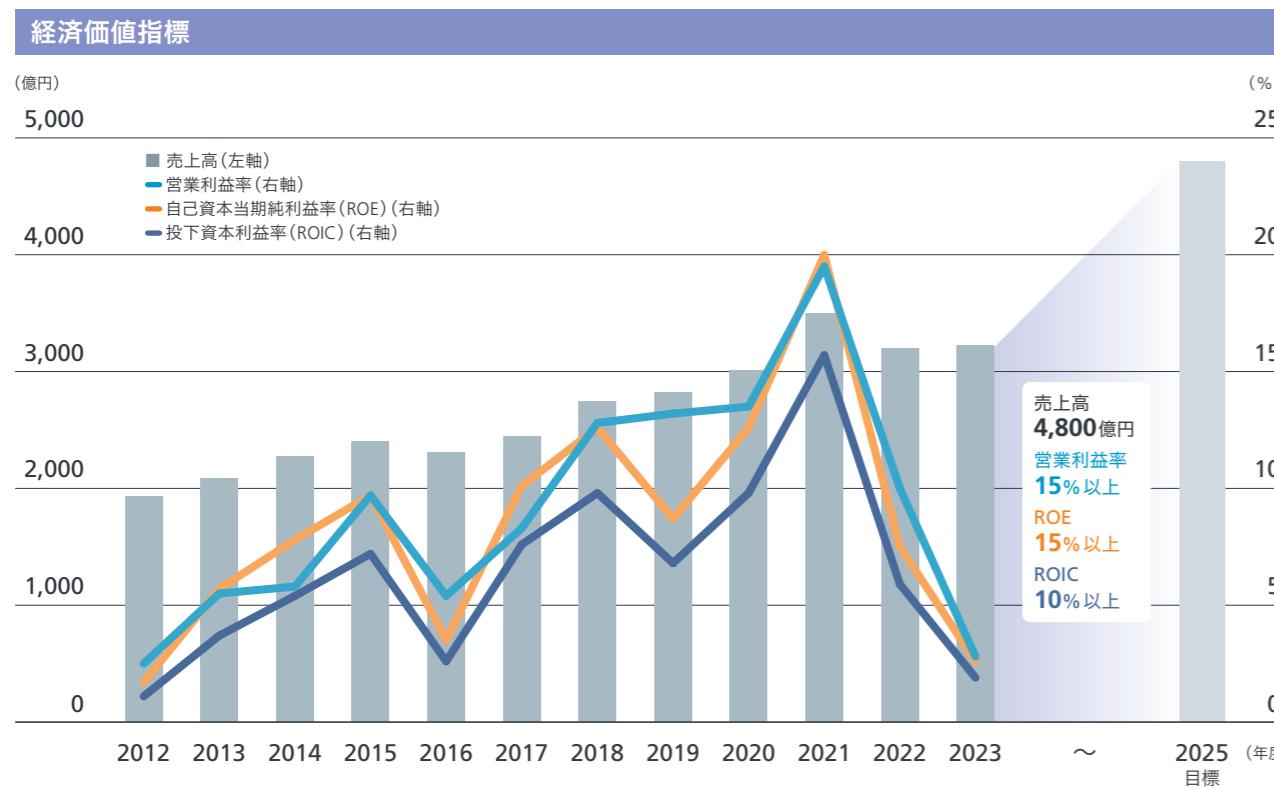


中期経営計画2025 (2021~2025年度)

経営指標の推移と目標



中期経営計画2025の進捗と課題

中期経営計画2025(2021~2025年度)では、安定的な成長が見込める自動車市場、情報インフラ・産業機器市場を「注力すべき市場」と定義し、この市場を中心に売上伸長を図りつつ、経済価値と社会価値を両輪とした企業価値向上を目指しています。経済価値においては、売上高、営業利益率、ROE、ROICを経営指標に設定。社会価値においては、GHG排出量、廃棄物・水使用量、職場の安全、ダイバーシティなどに関連した経営指標を設定しました。また、計画初年度の2021年度から5年間で3,000億円の設備投資計画を進めています。自動車向けを中心とする将来の需要拡大に備えた生産能力増強と同時に、環境対策・IT整備に向けた設備投資も積極化しています。

2021年度は好調な市場環境を背景に、営業利益率、ROE、ROICが最終目標を超過するなど順調な滑り出しとなりましたが、2022年度は電子部品の需要環境が一転して各経営指標が悪化、2023年度も情報機器市場や情報インフラ・産業機器市場の需要が回復に至らず、営業利益率、ROE、ROICが悪化しました。また、情報インフラ・産業機器市場

の需要低迷により、2023年度の「注力すべき市場」の売上構成比は48%と、目標である50%を下回りました。2024年度は、下期にかけて低迷していた市場も回復に向かうと見ており、引き続き中期経営計画2025の最終目標達成を目指して事業活動を行っていきます。

また、社会価値に関する経営指標のうち、新卒女性採用率は前年度に続き目標を達成しました。その他の指標については、GHG排出量と傷病率・度数率が前年度から悪化した一方、廃棄物・水使用量、ワークエンゲージメント、女性管理職比率は改善しました。今後も各指標の目標達成に向けた取り組みを展開していきます。また、気候変動対策については、省エネ・創エネ・再エネを軸とした積極的な活動や、サプライチェーン全体での対策におけるサプライヤーとの協働が国際環境非営利団体CDPから高く評価され、前年度に引き続き2023年度も、気候変動において最高評価であるAリスト企業およびサプライヤー・エンゲージメント・リーダーに選定されました。